

入学試験問題

数学(理科)



(配点 120 点)

平成 19 年 2 月 25 日 14 時—16 時 30 分

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 この問題冊子は全部で 20 ページあります。落丁、乱丁または印刷不鮮明の箇所があったら、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答には、必ず黒色鉛筆(または黒色シャープペンシル)を使用しなさい。
- 4 2 枚の解答用紙が渡されますが、青色刷りの第 1 解答用紙には、第 1 問～第 3 問について、茶色刷りの第 2 解答用紙には、第 4 問～第 6 問について解答しなさい。
- 5 解答用紙の指定欄に、受験番号(第 1 面 2 箇所、第 2 面 1 箇所)、科類、氏名を記入しなさい。指定欄以外にこれらを記入してはいけません。
- 6 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に記入しなさい。
- 7 解答用紙の解答欄に、関係のない文字、記号、符号などを記入してはいけません。また、解答用紙の欄外の余白には、何も書いてはいけません。
- 8 この問題冊子の余白は、計算用に使用してもよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 解答用紙および問題冊子は、持ち帰ってはいけません。

受験番号						
------	--	--	--	--	--	--

上欄に受験番号を記入しなさい。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 1 問

n と k を正の整数とし、 $P(x)$ を次数が n 以上の整式とする。整式 $(1+x)^k P(x)$ の n 次以下の項の係数がすべて整数ならば、 $P(x)$ の n 次以下の項の係数は、すべて整数であることを示せ。ただし、定数項については、項それ自身を係数とみなす。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 2 問

n を 2 以上の整数とする。平面上に $n + 2$ 個の点 O, P_0, P_1, \dots, P_n があり、次の 2 つの条件をみたしている。

① $\angle P_{k-1}OP_k = \frac{\pi}{n}$ ($1 \leq k \leq n$), $\angle OP_{k-1}P_k = \angle OP_0P_1$ ($2 \leq k \leq n$)

② 線分 OP_0 の長さは 1, 線分 OP_1 の長さは $1 + \frac{1}{n}$ である。

線分 $P_{k-1}P_k$ の長さを a_k とし, $s_n = \sum_{k=1}^n a_k$ とおくと、 $\lim_{n \rightarrow \infty} s_n$ を求めよ。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 3 問

座標平面上の2点 P, Q が、曲線 $y = x^2$ ($-1 \leq x \leq 1$) 上を自由に動くとき、線分 PQ を $1:2$ に内分する点 R が動く範囲を D とする。ただし、 $P = Q$ のときは $R = P$ とする。

- (1) a を $-1 \leq a \leq 1$ をみたす実数とするとき、点 (a, b) が D に属するための b の条件を a を用いて表せ。
- (2) D を図示せよ。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 4 問

以下の問いに答えよ。

- (1) 実数 a に対し, 2 次の正方行列 A, P, Q が, 5 つの条件 $A = aP + (a + 1)Q$, $P^2 = P, Q^2 = Q, PQ = O, QP = O$ をみたすとする。ただし $O = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$

である。このとき, $(P + Q)A = A$ が成り立つことを示せ。

- (2) a は正の数として, 行列 $A = \begin{pmatrix} a & 0 \\ 1 & a + 1 \end{pmatrix}$ を考える。この A に対し, (1) の 5 つ

の条件をすべてみたす行列 P, Q を求めよ。

- (3) n を 2 以上の整数とし, $2 \leq k \leq n$ をみたす整数 k に対して $A_k = \begin{pmatrix} k & 0 \\ 1 & k + 1 \end{pmatrix}$ とおく。行列の積 $A_n A_{n-1} A_{n-2} \cdots A_2$ を求めよ。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 5 問

表が出る確率が p 、裏が出る確率が $1-p$ であるような硬貨がある。ただし、 $0 < p < 1$ とする。この硬貨を投げて、次のルール (R) の下で、ブロック積みゲームを行う。

- (R) $\left\{ \begin{array}{l} \textcircled{1} \text{ ブロックの高さは、最初は } 0 \text{ とする。} \\ \textcircled{2} \text{ 硬貨を投げて表が出れば高さ } 1 \text{ のブロックを } 1 \text{ つ積み上げ、裏が出ればブロックをすべて取り除いて高さ } 0 \text{ に戻す。} \end{array} \right.$

n を正の整数、 m を $0 \leq m \leq n$ をみたす整数とする。

- (1) n 回硬貨を投げたとき、最後にブロックの高さが m となる確率 p_m を求めよ。
- (2) (1) で、最後にブロックの高さが m 以下となる確率 q_m を求めよ。
- (3) ルール (R) の下で、 n 回の硬貨投げを独立に 2 度行い、それぞれ最後のブロックの高さを考える。2 度のうち、高い方のブロックの高さが m である確率 r_m を求めよ。ただし、最後のブロックの高さが等しいときはその値を考えるものとする。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

第 6 問

以下の問いに答えよ。

- (1) $0 < x < a$ をみたす実数 x, a に対し, 次を示せ。

$$\frac{2x}{a} < \int_{a-x}^{a+x} \frac{1}{t} dt < x \left(\frac{1}{a+x} + \frac{1}{a-x} \right)$$

- (2) (1)を利用して, 次を示せ。

$$0.68 < \log 2 < 0.71$$

ただし, $\log 2$ は 2 の自然対数を表す。

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)

計 算 用 紙

(切り離さないで用いよ。)